環境科学研究科

学生の確保（人）	年次	定員	志願者		受験者		合格者	入学者	
			学内	学外	学内	学外		学内	学外
	1年次	102 ※ 10 (102)	63 ※ 1 (65)	136 ※ 16 (159)	62 ※ 1 (63)	125 ※ 16 (146)	123 ※ 13 (121)	51 ※ 1 (51)	66 ※ 11 (65)

学生の進路（人）	修了者	就職者	就職者の内訳			研修医	進学者	その他
			企業	教員	公務員			
	100 ※ 9 (91)	67 ※ 3 (55)	59 ※ 3 (44)	2 ※ － (2)	6 ※ － (9)	－ ※ － (－)	11 ※ 2 (12)	22 ※ 4 (24)

・（　）は前年度の数値を，※は外国人留学生を内数で示す。

1　環境科学研究科の活動

本研究科は「環境知を軸にした学の融合と実践」を目標とし，それを実現するために，「充実した実習とプロジェクト研究教育による戦略中心学習」を実行すべく努力している。

(1) 教育目標：①自然科学から人文社会科学にわたる幅広い学際教育を行う。②人間環境系の解析と地球環境の利用・保全に関する教育研究を行い，総合性と専門性を兼ね備えた問題解決型の人材を養成する。

(2) 教育課程の見直し：①「実習」の内容を充実するために，学生アンケート調査の結果を踏まえて絶えず改善を行い，また，平成13年度から設けた「実践実習」の受入れ先の開拓に努めている。②教育方法の多様化と教育機会の多面化をはかるために，現行の１研究科１専攻を２専攻に改組し，入学定員10名増とすることにした。これは，平成17年度概算要求として提出した。

(3) 教育研究指導・教育方法の改善：研究科全体の学習機器（サテライト設置）の充実をはかった。

(4) 社会人の受入れ：平成15年度の環境科学研究科の志願者数は199名で前年より25名減であった。内留学生は17名（合格者13名）で，志願者数は８名減であるが，合格者数は３名増であった。社会人の志願者数は25名と５名増で，合格者は17名で３名増であった。

2　教員の教育業績評価の状況

(1) 社会人ブラッシュアップ教育と連携大学院方式が着実に成果を上げていることが確認された。

(2) 平成14年度の競争的外部資金獲得実績に関しては，教員の70％が獲得し，その総額は約３億円に達することが判明した。これは，学内でも遜色のない実績を示すものである。

3　自己評価と課題

(1) 自己評価：将来構想と概算要求に関する議論などを通じて，研究科の理念，教育目標などについての教官の意識が明確となり，研究科全体で概ね良好な形で教育・運営がなされている。なお平成15年度修了生100名の進路は，職場復帰２名，公務員・教員８名，企業団体59名，大学院進学11名，その他自由業，非常勤講師，ボランティア活動，研究生など20名であった。

(2) 主要な課題：環境問題の一層の多様化と環境科学に対する社会及び学生からの関心の高まり及びニーズの変化に対応して，次世代につうじる教育目標，教育課程，組織・制度を更に検討していく。

4　その他特記事項

平成17年度概算として，１研究科１専攻を２専攻に改組し，入学定員10名増（112名）を要求した。